

令和3年度 第3回磐田市多文化共生社会推進協議会 摘録

日 時	令和3年11月19日（金）午後7時00分～9時00分
場 所	磐田市役所西庁舎1階 Web会議室
出席委員	池上 重弘会長、玉田 文江委員、川原 利彦委員、松下 晴彦委員 渡邊 カルロス委員、青島 彰委員、小沼 裕樹委員、松尾 真里委員 高橋 ロウエナ委員、田中 琢問委員、相川 アンジェラ委員
事務局	地域づくり応援課 課長補佐、職員2人
オブザーバー	学校教育課（勝又） 多文化交流センター（杉田、山田）

[会議内容]

1 開会

2 会長あいさつ

3 報告事項

- (1) 第2回協議会の振り返り【資料1】
- (2) 第4次磐田市多文化共生推進プラン冊子（案）説明【資料2】

4 協議事項

- (1) 第4次プラン冊子（案）の見直し【資料2】
- (2) 具体的な取組内容（案）の見直し【資料3】

5 閉会

[資料内容]

- 【資料 1】 第2回磐田市多文化共生社会推進協議会 会議摘録
- 【資料 2】 第4次磐田市多文化共生推進プラン冊子（案）
- 【資料 3】 具体的な取組内容（案）の見直し

[会議概要摘録]

1 開会（事務局）

- ・欠席者は2名「藤田 允委員」、「平野 利直委員」
- ・「相川 アンジェラ委員」、「田中 琢問委員」、「薛 堅委員」3名からは遅参する旨の連絡を受けています。※薛委員は、欠席となりました。
- ・今後のプラン策定までのスケジュールについて説明

2 池上会長あいさつ

- ・オンラインの会議にも慣れたが、本来の形ではない。対面ならではの空気感が出ないのは味気ないが致し方ない。
- ・前回に引き続き、オンラインでは意見を出しづらいため、私から指名をして意見をもらう。
- ・その前にまず、皆さんと3点共有しておきたい。

【1点目】

特定技能第2号について検討開始の報道があった。

今すぐではないが、来年から本格的な検討が行われる。

特定技能資格の方々の永住を視野に入れたものである。

しかし、永住権が付与されたからといって、資格者の全員が永住するわけではない。

永住してくれると思うのは、日本人のエゴである。

【2点目】

出入国在留管理庁が有識者会議を立ち上げた。

11月29日に、会議で作成された意見書を法務大臣に提出する。

意見書を基に、国として初めての多文化共生・社会統合の中期計画が計画される予定。

プランの中では、以下の7つに重点が置かれると思われる。

①共生社会の実現、②安全安心な社会、③多様性に富んだ活力ある社会

④個人の人権の尊重、⑤円滑な日本語教育の支援、⑥必要な情報発信

⑦ライフスタイルに合わせた支援

【3点目】

袋井市を中心に中東遠地域で多文化共生の連携を取りはじめた。

11月15日（月）に、そのキックオフとなる会合があった。

これからは、単独自治体ですべての機能を備えて活動することは難しいため、広域で連携した取組みが進んでいくことを期待している。

インターナショナルフェアなども、その取組みの一つと言えるだろう。

- ・それでは、次第に沿って事務局より報告事項の説明があります。

3 報告事項

(1) 第2回協議会の振り返り【資料1】

- ・事務局より資料1について説明
(質疑応答)

(2) 第4次磐田市多文化共生推進プラン冊子

- ・事務局より資料説明

(3) 第4次磐田市多文化共生推進プラン体系図

- ・事務局より資料説明

4 協議事項

(1) 第4次プラン冊子(案)の見直し

① 基本理念について

【池上】

まずはプランの考え方、基本理念について議論したい。

外国人市民の方々は、そもそも多文化共生推進プランを知っているのか。

【相川】

内容はとても分かりやすいし、素晴らしい。

しかし、知っている人は少ない。一般の方にも知ってもらいたい。

本プランは多言語でも作成する予定があるか。

【事務局】

多言語対応は考えていなかった。前向きに検討したい。

【相川】

翻訳者でも、これだけの内容を翻訳するのはとても大変

自動翻訳を活用するのも良いと思う。

【池上】

概要版だけでも多言語対応を検討してもらいたい。

第3次プラン策定時には学生だった田中さん、この理念は中学生でも理解できる内容か。

【田中】

今の小中高生は、外国人市民が身近にいるため、理解できる内容であると思う。しかし、磐田市らしさが加わると更に良いと思う。

【池上】

基本理念は多文化共生社会以外でも、理念として通じる。汎用性が高い。

【事務局】

男女共同参画プランでも同じような表現になってしまっている。県や他市町村の理念も、あいまいで汎用性が高く、参考資料が少なく悩んでいる。

【池上】

現在、日本人と外国人を二分化して考えている。

このことについて、何か違和感はあるか。

【渡邊】

これでも良いと思う。

しかし、外国人に届くような情報発信をしてもらいたい。

Facebook などを活用して多くの外国人市民に対して、プランに関するアンケートを行うのも面白いと思う。行政との壁を壊すことが必要

【川原】

SDG s にも使われている文言であるため、このままでも良いと思う。

日本人と外国人を分けて考えるのも、わかりやすいため良いと思うが、“互いに”という言葉は、2者が対立しているようなイメージがあるため、“共に”という言葉に変更するのも良いと思う。

プラン冊子を銀行、健康増進課、こども未来課などの窓口において、手渡しで配ると多くの人に届くのではないか。

【田中】

磐田市ならではのフレーズが入っていると良いなと思う。

【青島】

東部小学校では、昔「違いを力に」というスローガンを掲げていた。

“違い”を肯定するのか、しないのかが大事だと思う。

【事務局】

第3次プランの理念で“互いを認め合い、誰もが個性と能力を発揮できる多文化共生のまちづくり”を掲げていた。その次のステップとして、今回“助け合う”という文言を入れた。日本人と外国人を二分化しないで捉えるのは更に次のステップだと考えている。

また、本プランは今年度のインターナショナルフェアのパネル展示に掲載する事で、情報発信できるよう計画している。

【池上】

ここで結論を出す必要はないため、事務局で持ち帰って見直しをするとよい。

②現状と課題について

【池上】

年齢層別人口は、これまでになかった情報である。これから先を考えるのによい資料

掲載しているデータは良いが、少し数字が小さく読みにくいいため、もう少し大きくなると嬉しい。

③基本方針について

【小沼】

体系図について、日本人に向けた周知も大事である。

【勝又】

体系図 1 6 の外国人児童は、外国人児童生徒に変更するのが正しい。

【松井】

幼児は数値化するのが難しいが、早期に入園を進めることで子どもたちや家庭の助けになるため、幼児向けの取組みが盛り込まれると良い。

【事務局】

幼児にも支援する要素を入れた方が良いと感じた。

【江間】

高校では、言葉の問題をクリアしている子とそうでない子がいる。

言葉をクリアできれば学校や家庭、就労にも役立つため、日本語習得に関する内容があると良い。

【池上】

令和5年度から、県立の夜間中学が磐田の“天平のまち”に本校、三島に分校が設置される。

子どもが学ぶ日本語だけでなく、大人が学校などで学ぶための日本語の教育が足りない。

磐田市ではどう考えているか。

【事務局】

市独自の日本語教室を展開していきたい。夜間中学との連携も考えている。

【松下】

技能実習生は組合があるので、問題はない。

しかし、派遣会社に勤めている方への支援は必要である。

外国人と企業がマッチングできる機会があると良い。

【事務局】

これまで企業との連携が取れていなかった。産業部と連携して、まずは課題の把握と企業との繋がりを作っていきたい。

また、企業に対しても市独自の日本語教育を通じて、橋渡しをしたい。

【玉田】

ららぼーと磐田でのインターナショナルフェアの、準備会に参加している。

その中で、パネル展示による自治会組織の紹介を行いたい。

【池上】

ららぼーと磐田で実施することにより、関心の無い方にも知ってもらえる貴重な機会。夜間中学についても紹介できると良い。

【青島】

新規施策や継続施策がわかれば良い。

【事務局】

第4次プランでは、取組みの統廃合を行っており、表記することでかえって分かりづらくなる可能性があると考え、表記をしていなかった。

【青島】

あえては求めないため、大丈夫です。

(2) 具体的な取組内容（案）の見直し

資料3について、事務局から説明

【池上】

情報発信において、SNSの活用が盛り込まれているが、実際、外国籍の方々にはSNSをよく使っているのか。

【高橋】

フィリピンではSNSをよく使っているので、効果がある。

特に、Facebookは有効である。

【田中】

若者はInstagramを使っているが、アプリの仕様が市からの情報発信にはそぐわないと思う。

また、外国人コミュニティへの発信力を持った、キーパーソンとなる20代、30代の人材の把握や育成も考えていきたい。

【池上】

インターナショナルフェアで、チームになってワイワイと準備や運営をする場に外国人市民の方を巻き込めると良い。

学生は、学校で防災訓練をしているため、子どもに親を連れ出してもらような仕掛けが出来ると良い。

【杉田】

プランが変化しているのが感じられてよかった。

子どもは学校で日本人と外国人と一緒に暮らしているため、理解があるが、大人は違うため防災訓練は有効であると思う。

交流センターでバレーボールをしていた若者に地域に参加をしたらどうかと提案をしたり、東新町団地に消防車を呼んで、子どもたちを乗せて防災訓練について、呼び掛けをさせた。

外国人市民が集まっている場に出向くことが大事である。

文章などではなく、実践の活動が必要となる。

【池上】

国際交流協会が、関係団体として多く名前が上がっているが、内容についてどう考えているか。

【川原】

日本人の認識が薄いので、日本人に対するインパクトのある言葉が必要
ICE の会報誌にも使ったが、“選ばれる磐田”という言葉などは良いと思う。
なぜ今のプランが必要かについて、日本人に分かりやすい説明が必要

【山田】

学齢期を越えた方向けの学習の場の提供がない。
市の施策に入れてもらいたい。

【池上】

夜間中学に入る前の、日本語教育の場が必要

【江間】

磐田には大学もあるため、連携できれば、時間や行動力によって発信力が上がるのではないか。

【池上】

地元の大学等との協力を指す文言を入れたらどうか。
本日出た意見について、事務局での見直しをして、次の会議に臨みたい。

6 閉会